

佐伯遺跡出土の製塩土器について

山 本 梓

2021 8月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

佐伯遺跡出土の製塩土器について

山本 梓

1. はじめに

平成27年度から29年度にかけておこなわれた亀岡市葎田野町佐伯遺跡の発掘調査(第1図)では、多量の瓦や墨書土器、木製品が出土したことから、周辺に寺院あるいは官衙的性格の施設があったと想定されている。

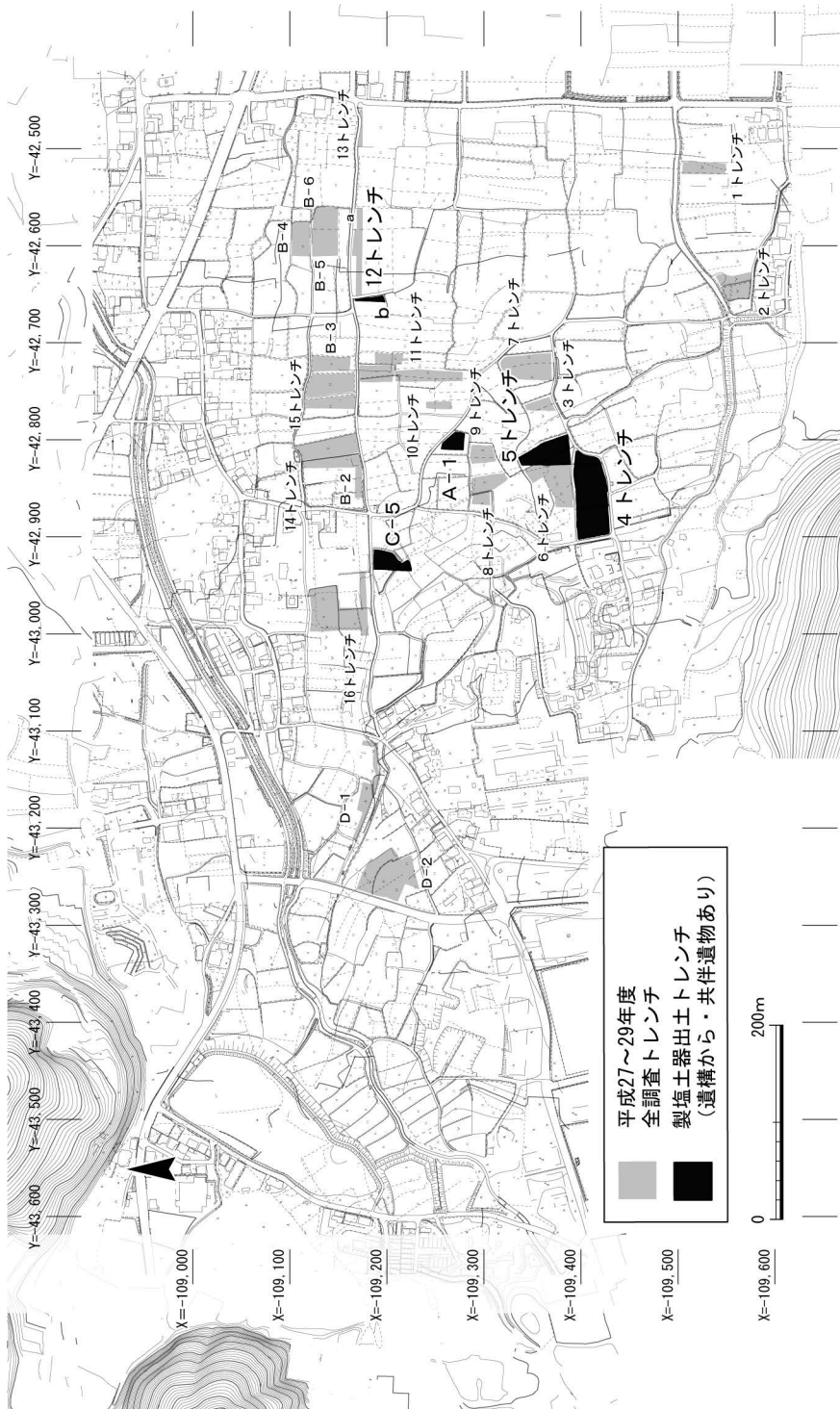
そして、それらの遺物の出土量には及ばないものの、かなりまとまった数の製塩土器が出土している。遺物の性格上内陸部における一定量の出土例をあまり見ないものであり、今回、共伴遺物や出土状況をふまえながら私見を述べていきたい。

2. 製塩土器の様相と年代観

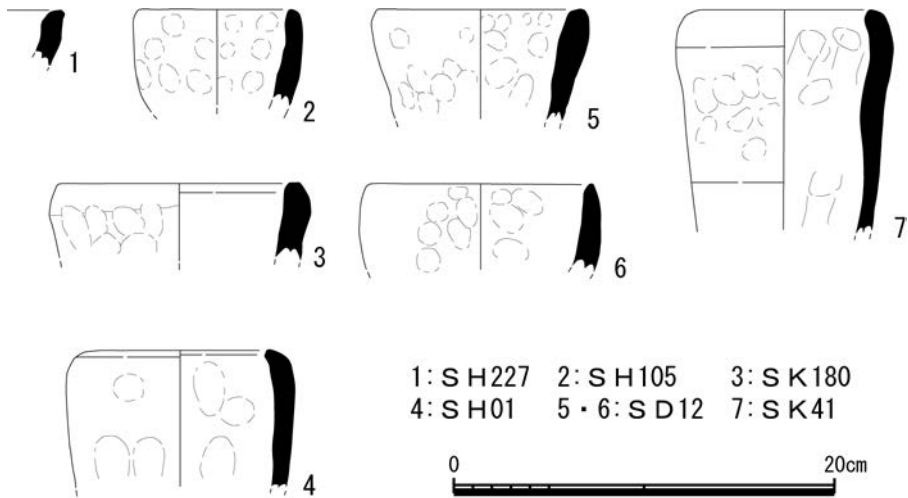
佐伯遺跡で出土した製塩土器については、いずれも破片資料であり、口縁部の形態、口径、調整が辛うじて確認できるレベルのものである。そのため、本稿では、遺構からの出土であり、なおかつ共伴遺物(おもに須恵器)のある資料のみを抽出することで年代を参考にしたい。

S H105・S H227・S K180およびS H01出土資料(第2図1～4)は、共伴する須恵器がTK43型式並行期に相当する。特徴として、いずれも器壁が厚く1cmを超えるものが多いこと、内外面ともユビオサエの調整が顕著に見られることが挙げられる。いずれも口縁部のみ残存しているため、断定はできないが、6世紀後半～7世紀初頭頃のものであると考えていだろう。

S D12・S K41出土資料(第2図5～7)は、共伴する須恵器の多くが飛鳥Ⅳ・Ⅴ型式に相当する。特徴として、S D12の資料は、先述の資料と同様に内外面ともユビオサエの調整による成形であるものの、口径がやや大きい作りであり、器壁の厚みも安定している。S K41の資料は、佐伯遺跡出土の製塩土器のうち、最も残存状況の良い一点である。残存部の特徴により、蛸壺形を成すものと考えられる。内面の調整では、ユビナデにより粘土紐の痕跡を消している。これらの資料については、その様相および共伴遺物の年代観を踏まえて、7世紀後半から8世紀にかかる頃のものであると推定する。



第1図 佐伯遺跡トレンチ配置図



第2図 佐伯遺跡製塩土器 1

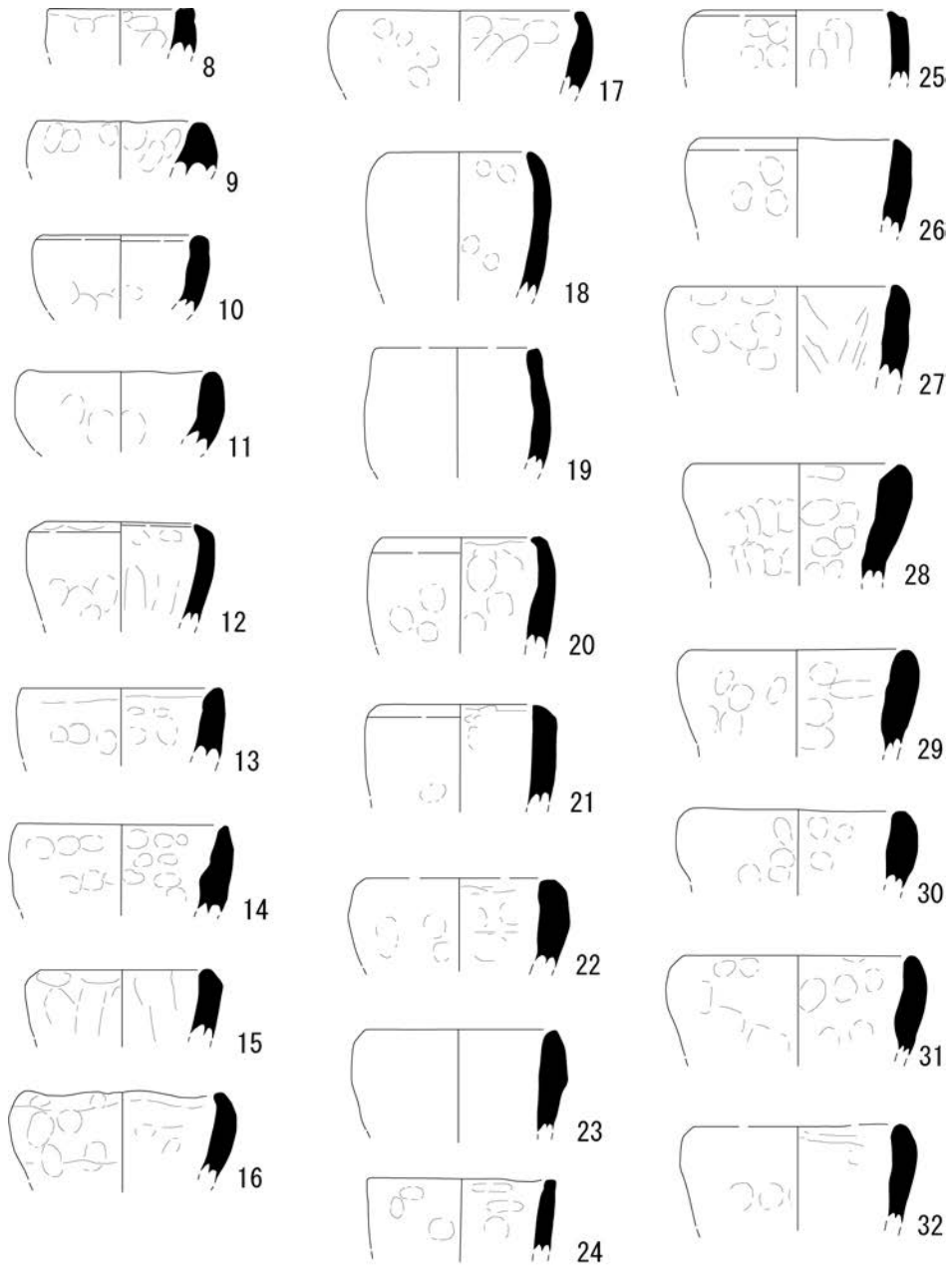
S D02出土資料(第3図～第5図)は、報告書に記載した点数だけでも59点にのぼる。なおかつ相伴遺物として、須恵器だけではなく、大量の墨書土器や木簡、木製品が出土しており、質・量ともに極めて良好な検討材料である。なお、墨書土器は須恵器杯Bの占める割合が多い。製塩土器はほとんどが口縁部付近のみの破片資料であるため断定はできないが、おそらく、椀型・蛸壺形・深鉢型の3タイプが存在すると考えられる。また、17点において内面に布目痕の残存を確認した(第5図)。これは型造りによる製塩土器づくりを表しており、これまでの研究によると、8世紀半ば以降に属すると考えられている。

S D02の資料のうち、口縁部を内湾させ、なおかつ端部を内側に折り曲げているものが散見される。この特徴については、生産地において海水を煮詰める際に、海水の表面と接する部分を作ることで、噴きこぼれを防ぐためのものとされている。この特徴の存在により、煮詰めた塩をそのままの容器で消費地に運搬したことがわかる。また、椀型、深鉢型になると考えられる資料については、その特徴が認められる個体が少ないように思われるが、土器の形態により、焼き塩の方法が異なる可能性も考えられる。

3. まとめ

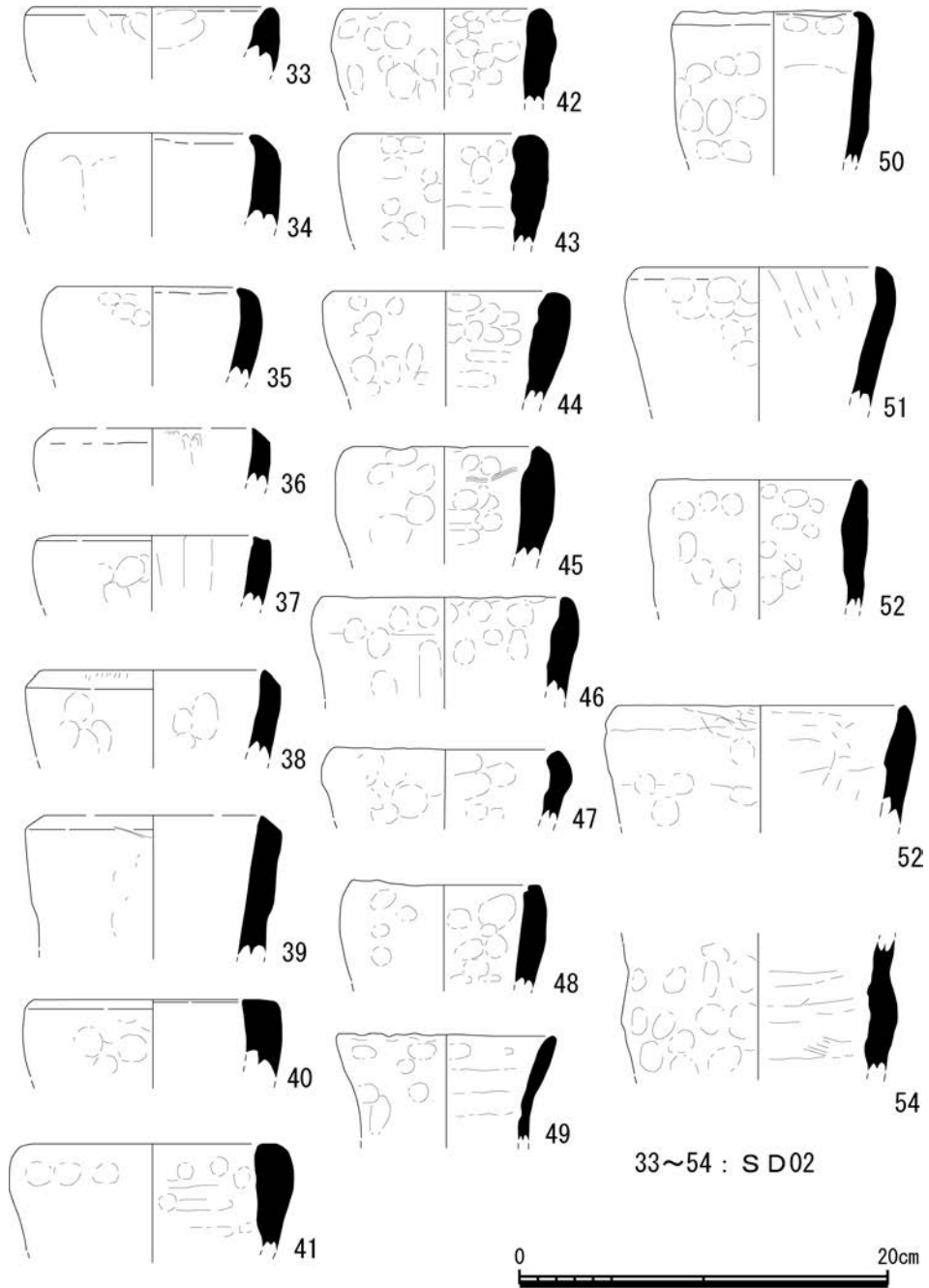
今回の製塩土器の出土に関する疑問点として、①共通して底部分が欠けた状態でしか出土していないこと、②大半の出土遺構がS D02であること、③木製品・墨書土器が出土しており、その数も相当数に上ること、が挙げられる。

まず、①については、これまでの消費地における出土のパターンとの類似性を指摘できる。消費地においては、輸送の便宜のためと思われる、土器の一部を故意に欠損させたも

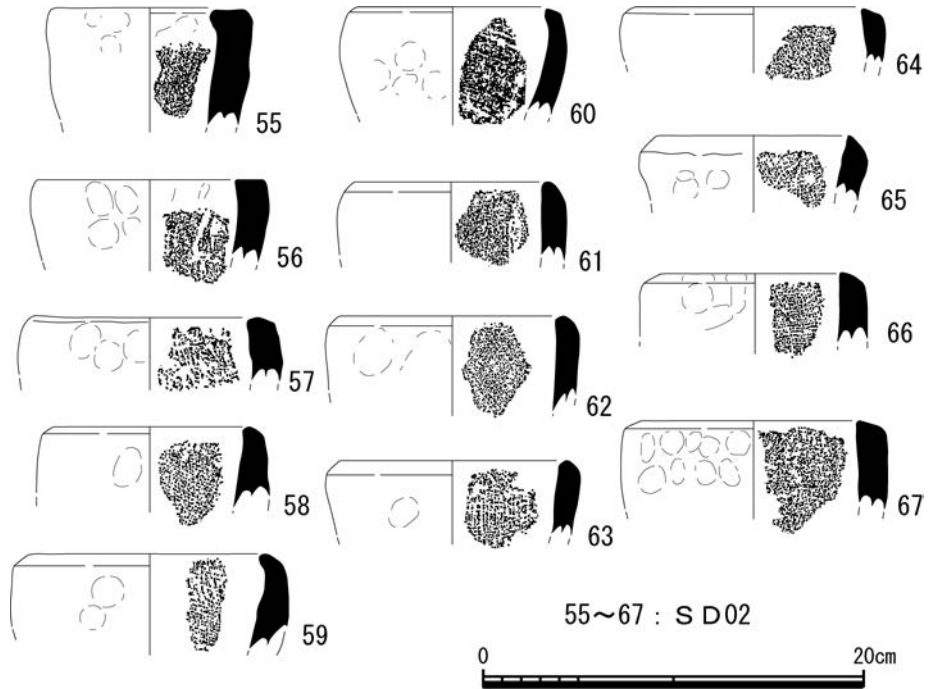


8~32 : S D02

第3図 佐伯遺跡出土製塩土器2



第4図 佐伯遺跡出土製塩土器3



第5図 佐伯遺跡出土製塩土器4

のが出土することがある。今回の出土については、精製塩の運搬もしくは精製後の製塩使用のために土器底部だけを切り取り、土器上部を意図的に切り捨てた、いわゆる「廃棄部分」である可能性を指摘できる。また、出土場所近辺における製塩の「消費」に重きを置いて考えることを示唆するものとも思われる。製塩土器の出土量について、平城宮跡等のような供給先のある遺跡での出土量と比較すると少量であるため、その規模は周辺一帯集落の消費を賄うに足りる程度のもと考えられる。生産地および牛馬飼育地の運営の可能性も検討したが、それについてもやはり必要量を賄えるほどの塩の存在を見込めないこと、骨の出土がなく、鍛冶関連遺構も見られないことから、その可能性は極めて低いだろう。これに②を併せ考えると、この地域で最終的に「消費」されるべき塩を取り出す際の「廃棄」された土器上部を集積した場所である可能性が考えられる。②に関連して、当該出土場所自体が何らかの建築物があった場所を遺棄し、さらに他所の建物廃棄物を集積した痕跡があることを指摘するものがあるが、その延長として、これら製塩土器の「廃棄」場所としてSD02が意図的に利用されたものと思われる。③については、墨書土器に書かれた文字の示す内容の検討が不十分であり、現地点で製塩土器の出土状況と合わせて分析がしきれていない。ただ、建物を示す類の文字が複数点あり、食料の備蓄庫があった可能性も否定できない。

以降は他所の発掘実績等との比較を待つ必要があるが、例えば、亀岡近辺が地勢上、若狭周辺の日本海沿岸から畿内へ続く「塩の道」の中継点の一つであり、その重要性から当地での塩の消費が許された地であったということであれば、運輸経路における同様の中継点と思われる場所で、類似性を持つ製塩土器の出土例が見られる可能性もあるだろう。

今回、製塩土器の分類や他地域との比較の中で土器の生産地の検討をおこなう所までは至らなかったため、畿内全体の中での丹波における製塩土器の出土事例の整理および分類について、改めて別稿にて考察していきたい。

(やまもと・あずさ＝当調査研究センター調査課調査員)

〈参考文献〉

- 小池 寛 2002「古墳時代中期における製塩土器研究の現状と課題」(『京都府埋蔵文化財情報』第86号(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)
- 岩本正二 2012「製塩」『古墳時代研究の現状と課題』下
- 山内紀嗣 1985「8、9世紀における内陸地域の製塩土器」『天理大学学報 西谷真治教授還暦記念論集』第145輯 天理大学学術研究会
- 積山 洋 2017「日本古代塩業技術の諸問題」『考古学・博物館学の背景』—中村浩先生古稀記念論文集—
- 羽鳥幸一 2013「瀬戸内の製塩と流通について—一周防国を中心に堅塩と煎塩の様相をみる」『塩の生産・流通と官衙・集落』第16回古代官衙・集落研究会報告書 奈良文化財研究所

付表 佐伯遺跡出土製塩土器一覧

番号	トレンチ	遺構名	口径 (cm)	残存高 (cm)	口縁部	形態	報告書番号
1	4	SH227	—	2.9	外反 / つまみ上げ	椀型か	281
2	4	SH105	8.0	5.2	直行	椀型	282
3	4	SK180	12.8	4.1	直行 / 外面肥厚	壺型か	283
4	5	SH01	9.2	9.1	内湾 / 端部調整	壺型	306
5	12-b	SD12	11.2	5.8	外反 / 外面肥厚	壺型か	501
6	12-b	SD12	12.0	4.5	直行 / つまみ上げ	壺型か	502
7	A-1	SK41	9.2	11.6	内湾	壺型	676
8	C-5	SD02	6.6	3.0	直行	椀型か	1272
9	C-5	SD02	8.8	2.6	直行	椀型	1271
10	C-5	SD02	8.4	4.2	直行	椀型	1273
11	C-5	SD02	10.0	4.2	直行	椀型	1319
12	C-5	SD02	8.0	5.2	内湾 / 端部調整	壺型	1279
13	C-5	SD02	10.4	3.6	直行	壺型	1306
14	C-5	SD02	11.2	4.6	外反 / つまみ上げ	椀型か	1293
15	C-5	SD02	8.8	3.5	外反 / 端部調整	壺型か	1284
16	C-5	SD02	10.4	5.0	内湾 / つまみ上げ	椀型か	1297
17	C-5	SD02	12.8	4.2	内湾 / つまみ上げ	壺型	1311
18	C-5	SD02	8.0	3.8	内湾	壺型か	1280
19	C-5	SD02	(8.6)	4.6	内湾	椀型か	1295
20	C-5	SD02	8.0	5.6	内湾 / つまみ上げ	壺型	1278
21	C-5	SD02	8.0	5.2	直行 / 端部調整	壺型	1285
22	C-5	SD02	(10.0)	4.4	直行 / 外面肥厚	壺型か	1321

番号	トレンチ	遺構名	口径 (cm)	残存高 (cm)	口縁部	形態	報告書番号
23	C-5	SD02	10.4	5.4	直行 / 外面肥厚	壺型	1320
24	C-5	SD02	9.0	3.7	直行	壺型	1282
25	C-5	SD02	10.4	3.6	内湾 / つまみ上げ	壺型か	1266
26	C-5	SD02	10.4	4.6	外反 / 端部調整	壺型か	1267
27	C-5	SD02	10.4	5.2	直行	壺型	1276
28	C-5	SD02	10.8	5.9	外反 / 外面肥厚	壺型	1294
29	C-5	SD02	11.6	5.4	外反 / 内外面肥厚	壺型	1275
30	C-5	SD02	11.2	4.0	直行 / 外面肥厚	壺型か	1299
31	C-5	SD02	12.4	5.2	内湾 / つまみ上げ	壺型か	1264
32	C-5	SD02	(11.0)	5.5	内湾	壺型	1274
33	C-5	SD02	13.2	3.4	直行 / 端部調整	壺型	1307
34	C-5	SD02	11.6	5.0	内湾 / つまみ上げ	壺型か	1318
35	C-5	SD02	9.6	4.7	内湾	壺型か	1317
36	C-5	SD02	(11.0)	2.5	直行 / 端部調整	壺型	1301
37	C-5	SD02	11.2	3.6	外反 / 端部調整	壺型か	1291
38	C-5	SD02	12.2	4.7	外反 / 端部調整	壺型	1314
39	C-5	SD02	(12.0)	7.4	外反 / 端部調整	壺型	1290
40	C-5	SD02	12.0	4.2	内湾 / 端部調整	椀型か	1265
41	C-5	SD02	12.0	5.8	直行 / 外面肥厚	壺型	1323
42	C-5	SD02	10.6	5.0	直行	壺型	1322
43	C-5	SD02	10.0	5.6	直行	壺型	1298
44	C-5	SD02	11.2	5.6	外反 / 内外面肥厚	壺型	1315
45	C-5	SD02	10.4	5.8	直行 / 外面肥厚	壺型	1303
46	C-5	SD02	13.2	5.5	外反 / 外面肥厚	壺型	1304
47	C-5	SD02	12.2	3.6	内湾 / 外面肥厚	壺型か	1316
48	C-5	SD02	10.0	5.4	直行	壺型	1302
49	C-5	SD02	11.6	5.6	外反	壺型	1308
50	C-5	SD02	9.4	8.4	内湾 / つまみ上げ	壺型	1281
51	C-5	SD02	12.8	7.6	内湾	壺型	1283
52	C-5	SD02	11.2	7.1	直行 / つまみ上げ	壺型	1269
53	C-5	SD02	16.0	6.5	外反 / 内面肥厚	壺型	1305
54	C-5	SD02	—	7.2	—	壺型	1270
55	C-5	SD02	8.8	6.2	直行 / つまみ上げ	壺型	1296
56	C-5	SD02	9.2	4.6	内湾 / 端部調整	壺型か	1289
57	C-5	SD02	11.6	3.2	内湾	壺型	1312
58	C-5	SD02	(10.4)	4.0	直行 / つまみ上げ	壺型	1287
59	C-5	SD02	12.8	5.0	内湾 / つまみ上げ	壺型	1300
60	C-5	SD02	(10.4)	5.5	内湾	椀型か	1309
61	C-5	SD02	10.0	3.6	直行	壺型	1286
62	C-5	SD02	11.6	4.9	直行 / 端部調整	壺型	1313
63	C-5	SD02	(12.2)	3.8	直行 / 端部調整	壺型	1310
64	C-5	SD02	12.0	2.8	直行 / 端部調整	壺型	1292
65	C-5	SD02	10.4	3.6	外反 / 端部調整	壺型	1277
66	C-5	SD02	9.4	3.7	直行 / 端部調整	壺型	1288
67	C-5	SD02	11.2	4.4	直行 / 端部調整	壺型か	1268